



やるき  
ほんまきまき  
**木佐木**

神奈川県議会議員

日本共産党

2024.5.15

木佐木ただまさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984年山口県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川県大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

## 7 町の町長と懇談で県の役割を再確認

# 公共の役割を果たそうと頑張る自治体支援を！



大井町



真鶴町



中井町



箱根町



山北町



開成町

5/9～10で県西地域の7町長と懇談

松田町町長さんとの写真を撮り損ねてしまいました(反省)

5月9～10日、神奈川県西地域の8町の町長さんと県への要望や町の課題を伺うべく懇談の行脚を行いました。横浜と横須賀選出の議員しかいない共産党県議団において貴重な機会となります。ただ、大変残念なことに、直前に湯河原の富田町長が亡くなられ懇談の機会を持つことが叶わなくなってしまいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 住民の顔が見える規模だからこそ

懇談で共通して感じたことは、各町長さんが町の事業についてよく把握しているということです。住民の暮らしに密接した市町村において、首長が住民の実態や声をしっかり把握していることがとても重要です。

しかし、それは自治体の規模が大きくなればなるほど困難になります。率直に言って、立場の異なる施策などもあります。住民や社会のリアルな実態から厳しい判断を下す苦しさも伝わってきました。

一方で、一つの事業を行うのに予算規模が小さく始められることから町独自の特色ある取り組みもしやすいことがうかがえました。

## 広域自治体である県の役割を

町長さんから要望が多かったのは、一自治体で対応が不可能な富士山噴火や大地震などの災害対応(溶岩流の到達が想定されるとは、さすが富士山が近い地域)や採算が難しい公共交通の維持に対するものでした。どちらも、横浜など都市部でも同様の課題を抱えており、市町村域をまたいだ取り組みについて県がサポートしていく必要があります。

私自身課題意識を持ってきた、買い物難民の問題について改めて県内の具体的な事例から再検討していきたいと思います。

懇談の旅の様子を動画でもまとめましたのでご覧ください。



神奈川県木連 HP より

